

2021 年 6～7 月の突哨山周辺のヒグマ行動

大型ヒグマの出現と麦畑荒らしに警戒

2021 年 7 月 19 日 NPO もりねっと 山本牧

春の草食期に続き、6 月末から 7 月も、突哨山周辺のヒグマの活動は活発でした。特筆すべきはこれまで高速道路の南側に来たことのない大型のヒグマが橋を渡って入り込み、ぴぴの路まで現れたことです。

このクマは高速道南側の側道上に、熟してきた秋まき小麦を大量に食べたフンを残していきました。東鷹栖 9 線 21 号の被害農地のカメラに写ったクマも同一個体の可能性があります。

大型で、畑荒らしをしたヒグマの侵入のため、突哨山遊歩道の閉鎖はやや長引き、7 月 6 日から 16 日昼まで 11 日間となりました。

6 月 30 日午後、跨道橋で大型のヒグマを撮影。7 月 2 日にも撮影。

7 月 5 日早朝、ぴぴの路で同じ大型ヒグマとみられる個体を撮影。

7 月 6 日 遊歩道閉鎖。その後、7 月 7, 8, 9, 14 日と続けて橋でヒグマを撮影。不思議なのは、このクマの橋での移動方向が 7 月 9 日まではすべて、突哨山方向に近づく「入り」だったことで、別の出入り口があることを示すと同時に、ループ型の巡回行動を示唆している。

7 月 14 日夕方には東鷹栖 9 線 21 号の被害農地（高速道路北側）で市環境部カメラにクマが映り、その 30 分後の午後 6 時 44 分に突哨山側から戻ってきて出て行くクマが記録された。同じ個体にも見えるが、そうなると、畑荒らしと高速道くぐりがつながり、しかもかなり早いペースで移動している。

この大型クマは午後 4 時、午前 4 時、午後 6 時台など、まだ明るい時間帯に行動しており、人目を避けているとは言え、十分な注意を要する。

12 日未明には、中型個体がこの 1 回だけ映り、昨年と同じ個体とみられる。

突哨山はこの時期、フキやセリ類などの草本類は固く、枯れ始めており、ヤマグワの実やアリくらいしか食べ物はない。

農地は秋まき小麦が実り、近年は麦を食べる「文化」が、こちらにも伝わり始めている。突哨山の山麓にも麦畑はあり、突哨山を通り道とした農業被害の傾向に用心が必要と考える。

旭川市環境部、比布町とのカメラ映像などの情報交換が日常的にスムーズになり、広域の傾向分析が可能になっている。